

欧洲経済共同体

EEC

欧洲経済共同体 おうしゅうけいざいきょうどうたい

ドイツ連邦共和国（西ドイツ）、ベルギー、フランス、イタリア、ルクセンブルグ、オランダの6か国は、フランス外相シューマンの提唱によって1952年7月に欧洲石炭鉄鋼共同体（ECSC）を発足させ、石炭と鉄鋼の6か国共同運営を図った。欧洲経済共同体（EEC）はECSCに続く共同体でローマ条約により1958年1月に発足し、米国、ソ連（当時）に対抗できる経済圏として、国境のない単一市場の形成を目的として関税の統一、資本・労働力移動の自由化、農業政策の共通化などを行った。さらに、1967年7月1日に、ECSC、EEC、欧洲原子力共同体（EAEC、ユーラトム）の3つが統合され、欧洲共同体（EC）が発足した。1973年1月1日には、欧洲自由貿易連合（EFTA、1960年5月設立）に加盟していた英国、アイルランド、デンマークがECに加盟し、EFTAはECに統合され、1993年1月1日に加盟国12か国で単一市場が始動した。さらに1993年11月1日には欧洲連合（EU）が創設され、ヨーロッパの一体化が進められている。

<登録年月>

2007年06月
